

第7回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

1. 日 時 平成20年4月7日(月) 19:00~20:55

2. 場 所 市役所10階第5A・B会議室

3. 議事概要

(目指すまちの姿について)

【委員】

農業など産業に係る部分や環境と農業の連携などについて、課題や取組みを書き込むべきではないか。

【委員】

向こう10年を見据えた場合、商業の埋没率が高いと考える。農業と商業が行き来して商業を埋没させないビジョンや 帯広の強い農業をもっと伸ばしていくビジョンが必要。

【委員】

高速交通網の整備による交流人口の増加や地域産業の活性化の期待の記述があるが、反面、ストロー現象などのマイナス面についての記述も入れておいたほうがよいと考える。

【委員】

畑作農家の女性の有する加工技術の活用を、公的な機関がもっと組織的に取り組んだらどうかという話や労働力に余裕のある農村に観光を起こすことなどといった具体的な話が第1専門部会で議論されていたが、こうした点を取り込んだまとめ方が必要ではないか。

【事務局】

『1.時代の潮流とまちづくりの課題』においては、帯広市のことばかりではなく、大きな視点で記述をしている。5頁以降の『3.まちづくりの分野別の方向』においては、各分野別の記述をしている。こういった構成であることをご理解いただき、この部分を分けて議論していただきたいと考えている。

【委員】

『1.時代の潮流とまちづくりの課題』については、地域にとっての「課題」と「可

能性」を区分して記述したほうが分かりやすいのではないか。

【委員】

基幹産業である農業においては、懸念される面については記述のとおりであると考え
るが、国内自給率や安心安全な食など、今、農業に期待されている部分が良い意味での
課題であり、潮流のひとつであると考え。

【委員】

「観光でも、東アジアを中心とした外国人観光客が増加している」とあるが、これは
潮流である。これを踏まえた課題認識、例えば通訳が少ないなどの課題の記述がない。

【会長】

潮流を踏まえて帯広市のまちづくりの課題は何かということが確認していくことが今
日の議論となる。

【委員】

帯広・十勝の観光の力を高めていこうと動きも出てきているが、『1．時代の潮流とま
ちづくりの課題』ではグローバル化の中で片付けられている。海外からの誘致誘客だけ
が観光ではなく、観光についてどうしていったらよいのかということ課題として盛り
込んでいただきたい。

また、高速交通ネットワークの整備の記述があるが、道路などのインフラ部分しか記
述がないが、移動手段等のソフトが今後重要となってくるものと考えため、こうした
記述も必要と考える。

【委員】

帯広市における男女共同参画の推進についての取組みは遅れているものと認識してい
る。「女性が社会の担い手として」という記述があるが、女性はもともと社会の担い手あ
る。男女共同参画をすすめることは、人口減少社会で労働力人口の減少を克服すること
につながるものであるので、課題として記述してほしい。

【委員】

心と体のバランスをとった教育というものを考えていくべき。『3．まちづくりの分野
別の方向性』でしつけ教育が謳われているが、『1．時代の潮流とまちづくりの課題』で
記述が必要。

【委員】

『1．時代の潮流とまちづくりの課題』に入っていないと『3．まちづくりの分野別

の方向性』入れてはダメなのか、そうではないのか、みんな分からないのではないか。どのように考えればよいのか。

【事務局】

『1．時代の潮流とまちづくりの課題』は、時代の大きな流れの中で地域がどのような課題を抱えているのかという観点で書いており、ここに出ていないから『3．まちづくりの分野別の方向性』に書かないというのではなく、ここで課題や必要性も書いている。また、まちの可能性については、『2．目指すまちの姿』の中で書くことを想定しており、段階を経て各分野の方向性につなげていく構成になっている。

【委員】

『1．時代の潮流とまちづくりの課題』では、ソフト的なものは入っているが、弱者が住みやすい都市基盤をどうつくっていくのかということ課題としてもっと書かなければならないのではないか。ユニバーサルという部分では進んでおり、帯広市が特色を出せる部分であると思う。

【委員】

五期総の時と変わってきているのは、定年の引き上げ。これから段階的に上がっていくという話もあるが、そうすると労働力人口の減少というよりも、労働力人口の高齢化を認識すべきではないか。

【会長】

来月には中間報告まとめ、市民にこれまでの議論を分かりやすく示さなければならない。五期総とどのような繋がりがあって新しく示していくものは何かということの端的に分かるような骨組みを示さなければならない。

これまでの議論をまとめていき、目指す姿は何かという基本的な姿を今回は仮にまとめていきたいと考えている。ただし、これで確定ということではなく、また、各論の議論からもどって考えればよいと思う。

【委員】

時代潮流をどうとらえるかという根本的な裏づけの話になると色々な意見が出てしまいまとまらないのではないか。

【事務局】

『1．時代の潮流とまちづくりの課題』は、少子高齢化、グローバル社会、交通・情報ネットワークの進展、安心安全、環境問題、地域社会づくりの変化、地方制度の改革という、現在日本・十勝・帯広が置かれている誰もがそう思う時代の大きな流れを7つ

の項目に分けて書いたものである。このほかにもっと大きな視点から認識しておく必要があるものがあれば意見をいただきたい。

『3．まちづくりの分野別の方向性』は、各分野の方向を示したもので、専門部会で議論したものであり、ここで、分野ごとの課題やそれを踏まえた方向性が出てきている。この『1．時代の潮流とまちづくりの課題』と『3．まちづくりの分野別の方向性』を踏まえ、そうした中で帯広はこんなまちづくりを目指していこうという議論を今回していただき、『2．目指すまちの姿』にまとめていくという仕組みとなっている。

本来は、先にこんなまちがいいという話があるべきだが、それがなかなか難しいので、先に専門部会で各論の議論をしていただいている。これまで議論してきた大きな時代の流れの中での課題、まちの可能性、分野別の方向性を踏まえて全体としてどんなまちを目指すのかという議論を今回はしていただきたい。

【委員】

そうした認識の上に立ったとしても、観光の部分がグローバル化に入るのはどうかと思う。帯広の強みを活かした産業として、これからの大きな課題として認識すべきではないか。

【委員】

『1．時代の潮流とまちづくりの課題』は、いわばマクロ的な課題であり、『3．まちづくりの分野別の方向性』がミクロ的な課題なのではないか。その橋わたしを『2．目指すまちの姿』として議論しようということではないか。時代潮流は、マクロ的な視点で落ちているものがないか見なければならぬが、あらゆるものが入ってこなくてもいいのではないか。今の話は『2．目指すまちの姿』として出てくればよいのではないか。

【委員】

観光は、今まできちんと扱われてこなかった現状があり、根本の部分で考え方を変えなければならないと思う。また、道路交通網ハード整備ばかりで交通手段についてあまり語られていないので課題の部分に入れていただきたい。

【委員】

それは、個別分野の話だと思う。

【委員】

テーマをどうするかということについては色々な議論があると思うが、個性ある地域をどうつくっていくのかということは全国的な流れであり、特色を活かせるものを入れていくことが必要ではないか。

【委員】

産業振興に関わるものをこの7項目で語れるのか。もう少し経済に関わることを書いた方が第1部会で議論された各分野の方向性につながっていくものと思う。

【会長】

現在、人・モノ・情報のグローバル化、また、国内のネットワーク化という流れが示されている。産業を取り巻く情勢は、こうしたグローバル化やネットワーク化の中で語られるのではないかと思うが、それ以外に1次、2次、3次といった産業全体の流れ変化を示すものが必要であるということであれば、どう表現したらよいか考えなければならない。

【委員】

色々な意味で格差社会といわれているが、一つには地域間格差により地方が疲弊してきているということがある。日本全体で見ると製造業が経済を牽引しているが、帯広・十勝ではそうした製造業はない。そうした中、観光をけん引役にしていくということは地域として大事なことだと思う。日本全体の潮流としては示されている7項目になると思うが、帯広・十勝として認識すべき大きな流れとしては、地域間格差の是正がありここに盛り込むべきと思う。

【委員】

そうすると、大事な教育や医療が入っていないということになる。時代潮流の7項目に地域資源を活かした個性あるまちづくりについて書かれており、この中で農業や交通、観光なども考えられるのではないか。

【委員】

埋没することが懸念される。

【委員】

総論は大きな流れをとらえ、各論できちっと書き込めばよいのではないか。様々な分野があるので細かく言うとまとまらない。

【委員】

今回配布された状況変化を示す資料では、社会保障や教育、産業が入っている。7つの項目で足りているのか。

【事務局】

今の議論が、『2. 目指すまちの姿』の議論だと思う。地域間格差の中でもっと観光に

力を入れるという観点でまちづくりをすすめるべきという話などは、まさに、帯広市が目指す姿をどうしていくのかという議論である。この後、集約はしていかなければならないが、こうした議論をベースに『2．目指すまちの姿』をまとめていただきたい。

【委員】

今は、縦の時間の流れで整理しており、ここに各分野の流れをいれると收拾がつかなくなってしまう。

【会長】

分野別の課題は『3．まちづくりの分野別の方向性』書いていくので、時代の潮流にないから排除されるという心配はする必要はない。大事なことは、帯広市が『目指すまちの姿』とは何かということである。ここには全てを書くことはできず、帯広市を取り巻く状況、帯広市の強み・弱みを踏まえた上で、圧縮していかなければならない。

【委員】

そのとおりだが、人口減少を踏まえるとまずは働く場があるということが重要であり、産業振興、産業育成の視点が必要。埋没するテーマでなく、『時代の潮流とまちづくりの課題』として捉えるものだと思う。時代の潮流として人口減少というテーマで捉え、そのために産業育成が必要という流れで書けるのではないかと思う。

【会長】

『1．時代の潮流とまちづくりの課題』の1番目は「人口減少・少子高齢化」として捉えるということによいか。

【委員】

人口減少と産業を直接結びつけるのはどうかと思うが、そこしかないならそのような整理もあるものと思う。いずれにしても地域として認識すべき大きな課題として扱うべき。

【事務局】

産業については、『1．時代の潮流とまちづくりの課題』のところで整理したい。『2．目指すまちの姿』にどう結びつけるかということも考えながら書き方は工夫したい。

【会長】

目指す姿をコンパクトに分かりやすく示していくということが中間報告に向けて大事なということだけは共通認識として持ってもらいたい。産業については新たな項目として事務局で整理していただきたい。

【委員】

8年先を見ても状況は大きく変わることが予想され、見通しを立てながら考えなければならぬ。『2. 目指すまちの姿』では、安心して生活できる視点が必要ということが示されているが、市民が見たとき何をもって安心かということを分かりやすく示すことが必要。また、人口対策については、何らかの政策的な部分を示すことが必要と思う。さらに、人づくりも重要である。人が育てば産業も活発化する。雇用の促進、住宅の整備、産業育成という部分で、もう少し分かりやすく時代の流れで通じるものを書いていくことが必要である。また、高齢者が市民に再教育する。生き方を諭すというものがあって良い。

【委員】

参考配布された状況変化に関する資料に、社会保障制度の変化が書かれているが、高齢者福祉も含め障害福祉は、かつて、措置制度のほかに施設化政策という大きな考え方があった。自立支援法の制定は脱・施設化政策に入ったと認識されており、これは世界の潮流となっている。その部分は、大きな政策転換が行われているのでこれを取り入れてほしい。

また、少子高齢化の後に来るものとして単身世帯の増加ということがあり、今後、大きな問題としてまちづくりの中で大きな位置を占めてくるものと思う。

また、時代潮流の最後に国と地方の役割分担について書かれているが、十勝の中でどういうリーダーシップをとっていかということを考えなければならない。国保や介護保険という地方が担っている部分について、今後、広域連携を進めていくことが必要である。現在はそうしたサービスは帯広に集中しており、連携の仕方を改めて考えなければならない。

【事務局】

今回のたたき台全般に対する意見はペーパーで提出をお願いしたい。提出された意見を踏まえ、次回の審議会でも中間報告(案)を示し再度議論をいただきたいと考えている。

以上